

週日の説教

金 大烈 神父 2010年2月27日(土)

《神様の所為^{せい}ではない》

私は、インターネットの、メンバーが1万5000人を超えている一つのサイトを通して、霊的な相談を行っています。1日平均1600人から2000人がそのサイトに接続します。ですから、私はさぼることができません。毎日幾つかの質問が寄せられます。中には急を要するものも含まれているので、いくら疲れていても、酒を飲んでいても、できるだけ早く答えるようにしています。

その中に、20歳代の男性からの次のような質問がありました。「ハイチの地震や他の場所のいろいろな災害によって、亡くなる子ども達があります。そのような子どもたちを見たら、神様がいらっしゃることをどのように人々に伝えればよいのか、分からなくなります。『あなたはカトリック信者だが、あなたの信じている神様はいないのではないか。もし神様がいらっしゃるのならば、なぜこんなことが起こるのか。』とよく人に聞かれます。私には答えられないので、どのように答えればよいか教えてください。』」という質問でした。

罪もない子どもたちが、いろいろな災害や事故によって死んでしまうことを皆様はどう思われますか。同じような質問をされたらどのように答えますか。難しい質問ですよね。しかしこれからは、このように答えてください。

「神様の所為^{せい}でそのようなことが起こるのではありません。カトリック信者ならばいつも考えなければならぬことですが、この世の中の全ての悪や罪は、100%私たちの所為^{せい}で起こるのです。」と。

以前申し上げたことがあります。人間にとって神様はものすごく無能な方かもしれません。なぜならば、全ての権利を人間に与えてくださったからです。そして、与えたことにいつも責任を負っていらっしゃるのです。

たとえば、ある有名な絵の話を紹介したことがありますよね。その絵は、イエス様が門の前に立ち、中に入ろうとしている絵です。しかしその門にはノブがなくて、中から開けてもらわなければ、イエス様はその家に入れません。この絵は、どういうことを意味しているのでしょうか。これは、“イエス様・神様が私たちに恵みを与えようとしているのに、私たちがそれを拒否して、イエス様・神様の手の届かない世の中を作ってしまった”ということを意味しています。

だから、神様の所為^{せい}にするのではなくて、一人一人が罪の意識を持ち、なぜこのように貧しい国が存在するのかを考えることが必要です。全ての国が、国籍や民族を超えて分かち合えれば、こういう問題は絶対に起こらないと思います。人間は、いつも何かの所為^{せい}にすることが癖になっています。しかし神様は、その亡くなる子どもたちを見ながら、きっと誰よりも泣いていらっしゃると思います。「なぜあなたがたは、うまく生きることができないのか。」と訴えながら泣いていらっしゃると思いま

す。そして、神様は待っていらっしゃるのです。私たち一人一人が救われるかどうかは、与えられた命をきちんと生きられるかどうかによって決まります。そして一人一人がどのように行動するかによって、この世が続いていくかどうかが決まるのです。それは天地創造以来の約束です。ですから、神様の所為^{せゐ}ではありません。そのように考える前に、一つでも役に立つことをしようと努力することが必要だと思います。誰かの所為^{せゐ}にして解決する問題ではありません。誰かを批判する時間やエネルギーがあれば、自分なりに少しでも自然の保護のために、環境の保護のために、いろいろなことのために力を入れるべきだと思います。そして、そういうことをたとえ一人ずつにでも広められれば、子孫たちには少なくとも今よりよい環境を残していけるのではないのでしょうか。

皆様、カトリック信者でも神様のこと、御父のこと、イエス様のことに、やはり疑問を感じるかもしれません。しかし、疑わないでください。『疑問』と『疑い』の違いをご存知ですよ。疑うことは、自分が今まで歩んできた全てのことを否定してしまいます。もし、それによって神様のことがよく分かるようになれば、それは幸いなのですが、逆になる場合がほとんどです。それを狙っているのが悪魔です。疑いに負けないうためには、何よりも本当に子どものような信仰が必要です。“私が泣くとき神様の心はどのくらい痛いかな”自然にそう思えるのが一番ふさわしいことだと思います。神様は絶対に先に見捨てる方ではありません。縁を切る方ではありません。何があっても最後まで待ってくださる方です。しかし、この世の中にも、私たち一人一人にも、最後は必ず来ます。それは死です。死ぬときまで、どのような心で生きるべきか、どのような心でイエス様を見るべきか、いつも意識しましょう。

今日の福音(マタイ 5・43 48)の最後に、このように書かれています。

「天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」

この言葉はどういう意味でしょうか。これは希望です。私たちは、人生の中に完全なものはないし、それは不可能だと考えています。しかしこの言葉は、“少なくとも心だけならば完全になれる可能性がある”ことを希望として与えています。ですから、このような心を持つことによって、完全な人間になれることを信じましょう。これは希望です。みじめな人間として生きるしかないのがっかりするのではなく、私たちも頑張れば、イエス様が助けてくだされば、完全にはなれなくてもその近くまでは行けるだろうという希望です。そういう希望を持って生きれば、やはり私たちの顔は明るくなると思います。

ありがとうございました。